



☎869-12 熊本県菊池郡大津町森54-2 ☎096-293-8100
社会福祉法人 三気の会 三気の里

自閉症問題に さざげた半生

田中 穂引 自閉症親の会会長

当会副会長の下出益雄さんがまことしやかに横行しては、下出さんのような普通で、その都度「障害のある」の市民がわが子とともわが子のためにも生き抜き 障害のため孤立しがちな親 無理解と偏見の荒野に立ちますと替われ顔張ってお たちが胸を寄せ合い励まし 向かった汗と涙と命がけのられました。「後を頼み 合せて、受け入れてくれる 生きさまがついてきます」の言葉を残して亡く 所を探して必死になって動 いた。後に残った者として無き回っている時代でした。 名の人の足跡は無駄に 自閉症親の会は昭和四十 二十数年たった今、下出 六年八月十四日に十一人 のさんたちのおかげでまがり

親が集まって結成されまし なりに教育、福祉、医療、 た。下出さんは結成当初か 行政の分野で自閉症といっ ら何の報酬もなく黙々と会 障害が「何ですか、それは」 を支えてこられた方です。 といわれずに済むようにな りました。 その当時は自閉症につい

熊本日日新聞掲載

理事長 田中 穂

十一月十三日(土) 十四日(日) 古くからそれぞれの親の会を支え 佐賀市において、親の会九州協議 て来られた方々ばかりです。故下 会の役員会が開催されました。 出さんとも全員知り合いです。こ

十四日には用事があった為、土 の役員会に無理をしても出席し 曜日の仕事を終え、午後からトン ましたのは、会葬の折に弔電や、 ボ帰りで出掛けて来ました。 電話を頂いた方々へお礼と経過報

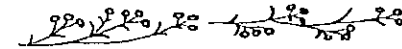
議題は来年度、佐賀県の親の会 告したいと思っただけです。全員 で黙祷し、下出さんの思い出話に

全国の親の会でこうしたプロッ 良き思い出ばかりです。こうして 話をしながら皆んな自分自身も歳

ク別の協議会を開いているのは九 ですから、それは人ごとではない 州だけなのです。例えば東北プロッ のです。自分自身の事、後に残る

クとか関西ブロックとかではやっ 子供の事を考えないではおれな いのです。各県の親の会も役員、

県担当)



達の会活動への無関心等共通の悩 みを抱えております。まだまだ問 題山積みでまさにこれからといっ た時期なのです。

熊本も平成7年、全国大会主催 県としての役割を果たす中でもう 一度親の会の意義を確認し、結東 し新しいリーダー達の育成へと課 題を持ってやっていかなくてはな りません。下出さん達のやってこ られた事を無駄にする事なく、今 後へ結びつけなくてはなりません。



療育シリーズ

両刃の剣

園長 土井尚典

ある園生が他の園生に足のふくらはぎの部分で蹴られたと訴えて来た。「痛い。」と訴えるのですぐに病院に連れて行った。軽い打撲と言うことで湿布薬を貰い、薬が切れると通院という治療をしていた。いつまで経っても「ピッコをひく」し、家族からの心配の声も聞いたので、他の病院で定期検診の際にレントゲンを取ってもらったら、腓骨に骨折痕が映っていた。この意味は「腓骨が折れて、既につながつている」と言うことである。園生にたいして「痛かったらう、つらかったらう。」と本当に申し訳無く思った。

経過と対応について考えてみたが、病院に行っているからとか、治療を続けているから安心、と言うことはないという事を思い知らされた。言葉が言えない、表現力の乏しい園生を処遇している事を絶えず考慮していないと知らぬ間に、大変な負担を園生にかけてしまふことが絶えずつきまといまわっている。そのことを承知で仕事をしな

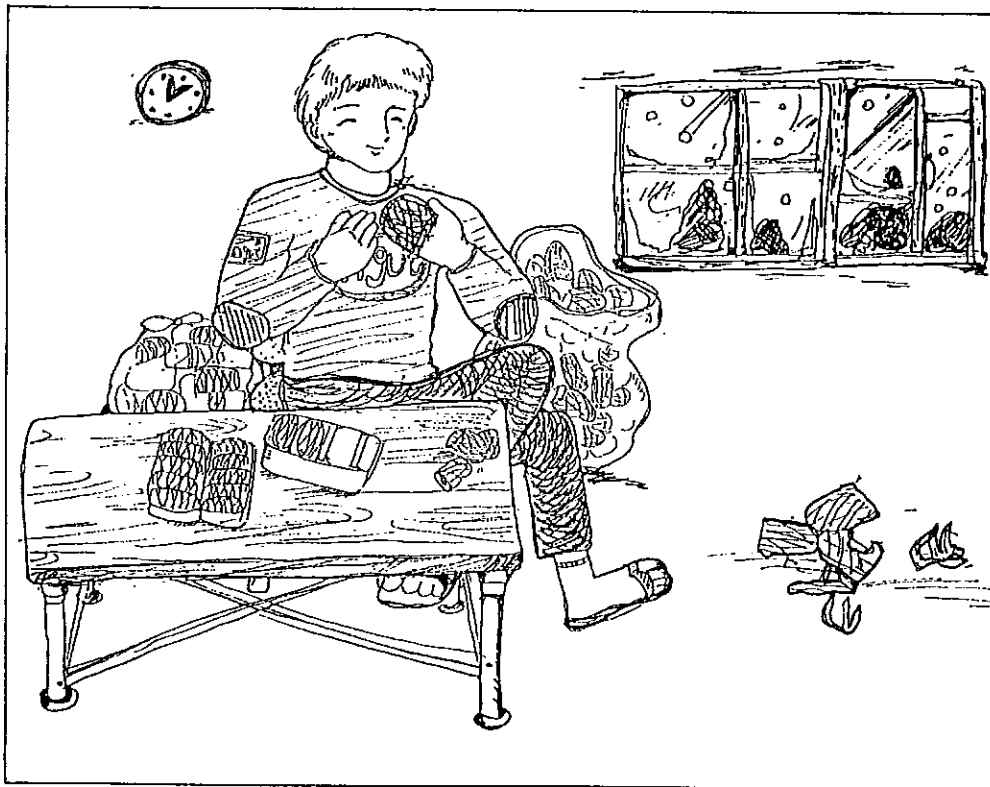
ければならないと思った。

職員は施設という仕事場では色々な病気や怪我を受け易いが、一方では、職員の方が外界との接触も多く病原菌を持ち込み易い。職員はこれくらいいの風邪など、こんな熱ぐらいと言って、ついつい頑張つて無理をしてしまふ。結果的に病気をこじらせて長く休みを取つてしまふことになり、職寄せが他の職員に来てしまふ。伝染性の風邪であれば園生に蔓延する危険性さえある。プライベートな事で職員に、「あーしろ、こーしろ。」と言えないが、「仕事人としての健康管理をきちんとする。」ことを怠ると知らぬ間に加害者になっていることさえある。

職員は園生から物を壊されたり、傷を負うこともある。一方園生も職員から、傷を負うこともある。職員が十分気を付けていて、悪意がなくても(当然であるが)生じるかもしれない。しかし、園生は訴えることができない。療育の場は絶えずこう言つた危険性をもっている。

加害者とか被害者とかいう言葉は余り適切でないが、人を対象とする仕事には自分の存在そのもの

が加害者になったり、被害者になったり両刃の剣のような存在である。ことを知っておく必要がある。人の存在にも仕事にも真摯な姿勢が必要である。





11月ニューズ



1班 メイプルネット

冷夏の異常気象が秋にも影響してか、11月中旬を過ぎるのにまだ暖かい日々が続きます。我が1班は暑くても寒くても、山に色の変化があっても何の影響もなく作業は淡々と流れます。その作業の中で変わったことと言えば、“仕分け村”に新メンバーの諭君が加わり、宣陽さんだけがライバルだった忠夫君がうかうかできなくなったこと。“ネットタウン”では、白色ネットが緑色ネット、桃色ネットと色が変わりネットの紅葉が見られたこと。“バリ島”、“バッキン諸島”には11月8日～20日まで熊本社会福祉専門学校の実習生、石井君が入って文ちゃんとしてくれたこと、特にバッキンは製作が速く納品納品と職員が忙しくなったことなどあります。どれも新鮮な空気を吹き込んでくれて作業意欲がますます膨らみそうです。 田辺

2班 五家荘へ行く

一源平合戦 八百年前に滅亡した平家、その落人が住み着いた、自然美あふれる秘境と平家伝説の里“五ッ木・五家荘”一。11月11日、2班一行は、五家荘のせんだん藪での紅葉狩りに出発した。

情報では11日あたりは、もみじやかえで等の鮮やかな紅葉が、滝の周りを彩っているとのこと。加えておいしい空気、水の音、滝にかかる虹、鳥の声等々想い描きながら、急激に曲がりくねった山道を、酔いをこらえて乗り越えていった。

ところが…目的地についても、どこをみても紅葉らしき風景が見当たらない。数日前の風雨が原因らしい。残念だがとりあえず、せんだん藪の前で記念写真をパチリ。次なる目的地へ出発しようとしたところ、突然見知らぬおばさんに声をかけられた。断ろうにも断れない強引な誘いで招待されたのは、深い山間にたたずむ、合掌造りのすてきな民宿だった。中央に大きないりを構えた、三十畳以上ありそうな広い屋根裏部屋に案内され、お団子やお茶、女将さんのお話し、五家荘流五木の子守り唄等々、たくさんのもてなしを受けた。思いがけない和やかな一時であった。民宿の売店に、2班の木工品をおいてみよう、ともいってくださった。

又会う約束をして帰路についたが、その頃はとくに、目的の紅葉狩りのことは忘れ去っていた。来たときと同じ曲がりくねった山道が、不思議と帰りには心地よく感じていた。 松下

3班 糸江宮庭園めぐり

3班は先口、蘇陽峽へ紅葉狩りへ行きました。(毎年恒例)服掛松キャンプ場に車を駐車し、そこから蘇陽峽の展望所まで4Km程歩きました。もくもくとわき目も振らず歩く人、道路わきに珍しい花や木があると「これは何?」「あっ、ここにもある。」と言っては植物採集に余念がない人(特に、職員!)又、途中、地鳥を飼っている所へ行き草をあげている人も…それぞれに現地までのハイキングを楽しみました。昨年は無かった滝も発見し、皆で感動する場面も…。しっかりそこをバックに全員で記念撮影を行いました。

展望所では、紅葉があと一歩というところでしたが、まずまずの好景。(一見の価値あります)昨年は高所恐怖症で展望所を(床は網目のため下が見え)思うように歩けなかった人も今回はスイスイ歩けるようになったりという場面もあり、新しい発見のある紅葉狩りでした。 山中

「夕鶴」と 「彦市ばなし」

黒澤加代子

11月16日にメルパルク劇場で行われた熊本演劇アンサンブルもつこす座最終公演の「夕鶴」「彦市ばなし」を観劇して来ました。みんなで行くのは今回が2回目、前回（一昨年前）の時は、座っていることができなかつたり、声を出す人が多く落ちて着いて見ることができなかつたので、大丈夫だろうかという不安がありました。しかし、いざ行つて座席に座つてみると、びっくりするくらいみんなは静かにしていて、館内が暗くなつても誰も動揺しませんでした。時々声は聞こえるものの真剣に見入っている人、見てはいないものの静かにしている人、また、寝入っている人と様々でしたが、1年間の月日の重さを感じた1日でした。

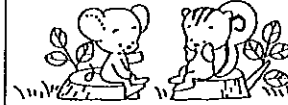
一月日が流れるのは早く、みんなの成長に気づかずに過ぎてしまっている中で、今回の観劇はみんなの成長を改めて感じさせてくれました。たくさんの人の中へ入つて行く社会参加への第一歩。今後このような機会があつたら、また

機会を作つて、参加して行かなければならないなあと感じました。

食卓上営業中

11月16日（火）アンサンブルもつこす座の行う演劇を見に行きました。そのため昼食は早く食べれて、片付けがないようパンに。それでも数人ゆっくり食べていたので「おいていくよ！」と言われたり。12時15分ごろ出発、メルパルクに向かいました。

ホールには沢山の人が入っていました。演劇が始まり、彦市ばなしと夕鶴があり、最初は皆、静かに見ていて偉いなーと思つていましたが、後半になると我慢が切れたのか、数人少しうるさくなりまして、席を立つこともなく最後まで見ることが出来ました。久々に園生と接することが出来、とても楽しかったです。



栄養の話

白身魚は一般に脂肪分が少ないのが特徴です。このため、胃腸への負担が軽く、病人食、離乳食などによく用いられます。多少水っぽいので薄塩をして身を締めたり、冷凍の場合は、半解凍の状態調理すると生臭くありません。

金丸



からいも

フェスタ

坂本信子

11月14日、大津町が主催し毎年恒例となっているこの「からいもフェスタ」に初めて三気の里も参加させて頂きました。前日までは、降ったり止んだり雨模様だったので、当日は何とか晴れて下

リル演奏やステージの催し物が楽しめました。三気の里からは由布子ちゃんと博君が朝から参加し、実習生の石井さん・志摩さんと（休みだったのにもかかわらず、準備から片付けまで手伝っていただきました。本当にありがとうございました。）一緒にあちこちとイベントや物産店を回りお腹を一杯にして帰って来ました。午後からは忠ちゃんや英君も来て、にぎやかな「からいもフェスタ」を一通り楽しんで帰りました。

初めての参加でいろいろと反省する点も多かったのですが、陶芸の方とも知り合いになれ（テントの組み立て、解体などお世話になりました！）又、沢山の人と出会えた場でもありました。皆さん、お疲れ様でした。



スノーシュー

スノーシュー

坂井 省英

曇天、一昨日の雪を踏みしめ今年最後の登山が行われました。雪道はぬかるんでとても歩きにくく、靴についたドロは一層重く岩はすべりやすく、その上、山は冬の様相で、いつ雪になってもおかしくないような天気の為、気持ちも足取りにもぶりがちでした。

こんな悪天候に何故登るのだと、自問しながらの登山でしたが、収穫もありました。すべりやすい岩場でも、注意深く降りる姿も、コースどりのたくみさも、これが2回目かという程、感動しました。

今回、初めての取り組みの登山、最初は悪天候に中止しましたが、10・11月の2ヶ月で、5回の登山を実施しました。少々の天気にもめげず頑張りました。種々な反省もありますが、危険に対する反応の速さや集団意欲の触発を見る事ができました。普段の生活では用意出来ない環境条件が山にはありましたが、この経験を一層深め、楽しい登山にしたいと思います。

11月26日記 坂井

秋の内科検診

田辺剛政

11月9日(午後2時より)作業室にて嘱託医でもある田中理事長に検診して頂いた。毎年、春と秋の2回行い、春は1時間程でおわるのに秋の検診は血液検査を行うための採血があり、今まで2時間半程かかっていた。採血は年に1回ではあるが、開設時より今回で7回目となるので園生も少しずつ慣れてきて、何と今回は一挙に2時間を切る早さであった。また、ベットに寝た状態でないで採血出来る事が出来るようになった。注射器を見て怖がる園生も、恐る恐る腕を出し怖いもの見たさか、しっかりと針先を見て終わるのをジッと待っていた。ベット上で採血する園生は6人程いたが、それでも昨年よりも早く決心をつけてベットに横たわる。それからは一気に採血して終わる。こんな中で、ただ一人緊張をしていたのは、今回初めて園生の採血をした看護士であった。失敗は許されなと思うだけで回りの音は聞こえず、「順番」と進行したと思ったのは私だけであろうか。

全国自閉症連絡会議

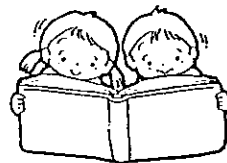
木下 昭二

11月18・19日の両日、福岡で行われた第7回全国自閉症者施設連絡協議会に、園長、坂井、高橋両指導員と共に参加しました。

文字通り全国各地より250名を越える方々の参加があり、開会式、中央情勢報告の後、4つの分科会に別れての討議が行われました。私が参加した第三分科会は、「施設と家庭の連携について(外泊について)」と題し、二人の先生による事例発表の後、自閉症療育における、共同療育者としての親の存在(協力)の意義や、又は外泊は、ともすれば職員の労働時間等の運営面をクリアするための施設側からの勝手な手段ではないのかといったといった内容の事などそれぞれの立場の方々からいろいろの意見が出されていました。

夜の懇親会では、それぞれの施設の情報交換で、至るところに話の輪が広がっていました。翌日は、大分大学助教授の小林先生の記念講演があり、先生の症例を混えてのお話しは頷ける所や、微笑ましい所もあり興味を持って聞かせていただきました。

今回、中心となってお世話いただいた志摩学園の先生方お疲れ様でした。機会があれば、来年の北海道大会にも是非参加させていただきたいと思えます。



後援協会入会
ありがとうございます

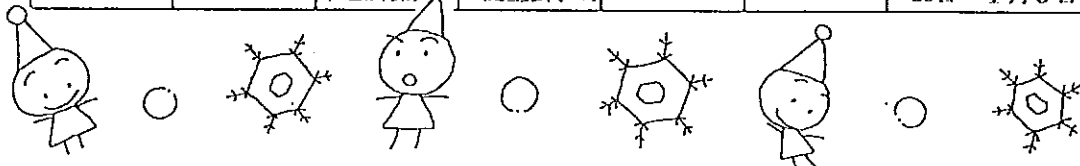
- 梅田隆生 小野勇一 濱之上真先
- 横山政行 本田直也 財賀真理子
- 内田裕己 北原慎也 清田翔平
- 梅田祥太 高森大輔 徳永裕和
- 芳川知洋 道上裕佳 森 裕三
- 神酒武志 藤岡成人 五百路智美
- 稲葉正二 足田将大 松本直樹
- 野満知嗣 井野一平 園田昌寛
- 鶴崎大介 松本頼子 木山和哉
- 平島康之 金森 保 佐々木黙雷
- 北里唯誠 魚住悠介 富田 豊
- 後藤冬樹

十一月二十六日付け

※敬称略

12月の行事予定

日	月	火	水	木	金	土	備考
色川いちゃん、比呂くん、ふみちゃん、のりちゃん、ようちゃん、さとしくん、しゅうちゃん、誕生会おめでとう。			1	2 いちゃん (27)、比呂くん (26)の誕生会	3	4 3班レク	
5	6	7	8	9 誕生会 クリーン作戦	10 ふみちゃんの誕生会 (28)	11 もちつき大会 保護者会・帰宅日 のりちゃんの誕生会 (22)	
12	13	14	15	16 2班レク	17	18	
19	20 ようちゃんの誕生会 (26)	21	22 さとしくんの誕生会 (17)	23 1・1 クリスマス会	24	25 帰宅週間	
26	27	28 帰宅日(冬季 帰宅訓練)	29 しゅうちゃん の誕生会 (27)	30	31	帰宅週間25日より 対冬季帰宅訓練 28日～1月5日	



ボランティア通信

毎週運動の日、グループごとに分かれて登っている久住登山に、ボランティアさんも一緒に参加してもらおうと11月3日(区)に学習会として山登りを行いました。今回はBグループの15名とボランティアさん13名(年齢層も小学生から年配の方までと幅広く)の参加がありました。中でも小学生のひろし君にさとし君は(偶然園生にも博君、諭君が参加)小さい体ながらも皆に負けないくらい頑張ったのぼっていました。それにひろし君が諭君とずっと手を取り合っていて登っている姿が印象的で微笑ましく思いました。皆さんお疲れ様でした。

山中
(ボランティアありがとうございます)

- ☆生け花 西村栄子
- ☆ボランティア指導 牛鳥さとみ
- ☆ボランティア学習会 後藤由美 栗屋美保 森隆子
- ☆ボランティア学習会 水野誠也 富永充 和田綾
- 黒澤敏浩 佐藤明子 荒井すみこ
- 吉田真紀 吉村さん一家
- ☆一日ボランティア 藤原美樹子
- 緒方紀子



☆散髪 坂本シマ子 源造増美
☆清掃 古賀由紀子 遠山一恵
※12月には、もちつき大会・クリスマス会が行われる予定です。遊びに来ませんか?
※敬称略



お礼
☆セイレーン・野田秀之様より、熊本演劇アンサンブルもっこす座、最終公演「夕鶴」「彦市」へ招待していただきました。
☆レインボーモータースクール様より草刈り機、インテリアのサカイ様よりカーテンを寄贈していただきました。
ありがとうございました。

編集後記

外は冷たい風が吹きぬける一方、園の中はポカポカ南国気分。編集部員は、顔を真っ赤にほてりながら、ワープロを打つ音や、笑い声が飛びかかったりと大にぎわい。お腹もいっぱいになり、そろそろ眼気がさしてきそうだなあ。満原